





げき
えんとつまち
の
ふへる

なまえ



【でるひと（15にん〜20にん）】

ぷぺる

るびっち

あんとにお

でにす

れべっか

とーます

なんしー

べん

ぶるーの

えんとつそうじや①

えんとつそうじや②

えんとつそうじや③

えんとつそうじや④

けむり①

けむり②

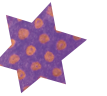
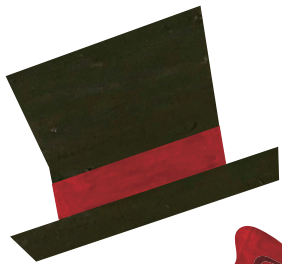
けむり③

けむり④

しんぞう（ほし）

すこっぷ

べる



☆「げき」がはじまるまえ

『ちむにーすいーぷ』がながれている。

※ちゃんと、「おんがく」がながれていることをかくにんしてから、「おきやくさん」をいれる。

※「おんがく」はなんども「くりかえし」でながす。

はじまるじかんになると、「おんがく」がおおきくなる。

「おんがく」をさいごまでながしきって、とめる。

「げき」がはじまる。



【すてーじのまえ】

「まく」のまえに「すこっぷ」と「べる」がとうじょう。

すこっぷ 「やあ、みんな」

べる 「いらっしやい」

すこっぷ 「たんこうふの『すこっぷ』だ」

べる 「きかんしの『べる』よ」

すこっぷ 「きょうあつまってくれたきみたちは、じつに、らっきーだ」

べる 「これは、まいかいいってるわ」

すこっぷ 「なんてったって、きょう、きみたちにおはなしするのは」

べる 「みなさん、おまちかね」

すこっぷ 「くろいけむりにつつまれたえんとつまちの…」

ふたり 「さいごのよるのものがたり」

「おんがく」（ぜんそう）がはじまる。

「すこっぷ」と「べる」がいなくなる。

すてーじの「まく」がひらく。



うた① 『ごみにんげんたんじょう』

「ぶるーの」がいる。

「えんとつそうじや」がいる。

「けむり」がいる。

「こどもたち」は、「ごみやま（ぬの）」のなかにかくれている。

そうじや 「えんとつまちはえんとつだらけ

くろいけむりでもつくもく

えんとつまちにすむひとは

あおいそらをしりやしない」

ぶるーの 「かがやくほしをしりやしない」

「ぶるーの」、ひとさしゆびで「はなのした」をこする。

けむり 「ほらふきおとこがこのまちに

よんできかせた『かみしばい』

いんちきはったりうそっぱち

『かがやくほし』などあるものか

まちのみんなのわらいもの」

「しんぞう」とうじょう。「ごみやま」のなかへ

しんぞう 「あるひけむりのなかからおっこちてきた」

こどもたち、「ごみやま（ぬの）」のなかで、あばれる。

こどもたち 「どくどくあばれるしんぞうに」

みんな 「ごみがあれこれくつついて…」

「ごみやま」から「こどもたち」と「ぷぺる」がとうじょう。
「ぶるーの」と「しんぞう」が、「ぬの」をもって、いなくなる。

みんな 「ついにうまれたごみにんげん

なんとみにくいそのからだ

ところがまちはだいかんげい

おばけがうじゃうじゃきょうははろういん

おばけがうじゃうじゃきょうははろういん」

「けむり」「えんとつや」が、いなくなる。

【まちなか】

きょうかいのかねがなる。



ぷぺる 「はろういんはたのしいね。またあしたもやろうね」

あんとお 「なにいつてんだよ、『ごみにんげん』」

なんしー 「はろういんはきょうまでよ？」

こどもたちが「ますく」をとる。

でにす 「どうしたんだよ。おまえもぬげよ『ごみにんげん』」

れべっか 「そうよ。そんなきたないかそうあなたもいやでしょ」

「れべっか」が「ぷぺる」のあたまのかさ（とんがりにとぼう）をひっぱる。

ぷぺる 「いててて」

れべっか 「きゃああああ。こいつかそうじゃない！」

「すこっぷ」「べる」、とうじょう。



とーます 「『ばけもの』だ！ほんものの『ばけもの』だ！」

なんしー 「『ごみにんげん』よ！」

べん 「はなれろ。においがうつる！」

「こどもたち」はいなくなる。

すこっぷ 「『ごみにんげん』のうわさはたちまちひろまった」

べる 「だれも『ごみにんげん』にちかづこうとしなかったわ」

「るびっち」がとうじょう



すこ&べる 「『えんとつそうじや』のるびっちをのぞいては…」

「すこっぷ」「べる」、いなくなる



るびっち 「きみがうわさの『ごみにんげん』か」

ぷべる 「あなたは？」

るびっち 「ぼくのなまえは『るびっち』。きみは？」

ぷべる 「……」

るびっち 「なまえ……もってないの？」

ぷべる 「…はい」

るびっち 「なまえがなければつければいい。そうだな。…『ぷべる』」

ぷべる 「ぷべる？」

るびっち 「『はろういん』のひにあらわれたから、

きみのなまえは『はろういん・ぷべる』だ。

「おんがく」がはじまる



うた② 『ちむにーすいーぷ』

「えんとつそうじや」が「えんとつ」をもって、とうじょう。
すてーじのまんなかに、「えんとつ（のセット）」をおく。

そうじや 「はーろーはーろ、ちむにー

はーろーはーろ、おれたちのしまさ

はーろーはーろ、ちむにー

はーろーはーろ、おれたちのしまさ

もつくもく『えんとつ』のうえまちみわたせば

こころひとつ こころひとつ

あせをながすおれたちはなかま

あせをながすおれたちはなかま

はーろーはーろ、ちむにー

はーろーはーろ、おれたちのしまさ

「ぶぺる」と「るびっち」がうたう。

ぶぺ&るび 「まっくろけすすにまみれ

うたうたえば

こだまひとつ こだまひとつ

かさなりひびくしあわせのうたが

かさなりひびくしあわせのうたが

はーろーはーろ…こえをあわせて」

「けむり」、とうじょう。

けむり

「もつくもく『けむり』んなか
みみすましてみれば

きこえてくるよあのうたが

あめよかぜよふきあれても

ここにたちこえあげうたおう」

みんな

「ひとりぼっちあつまりやなかま

ひとりぼっちあつまりやなかま

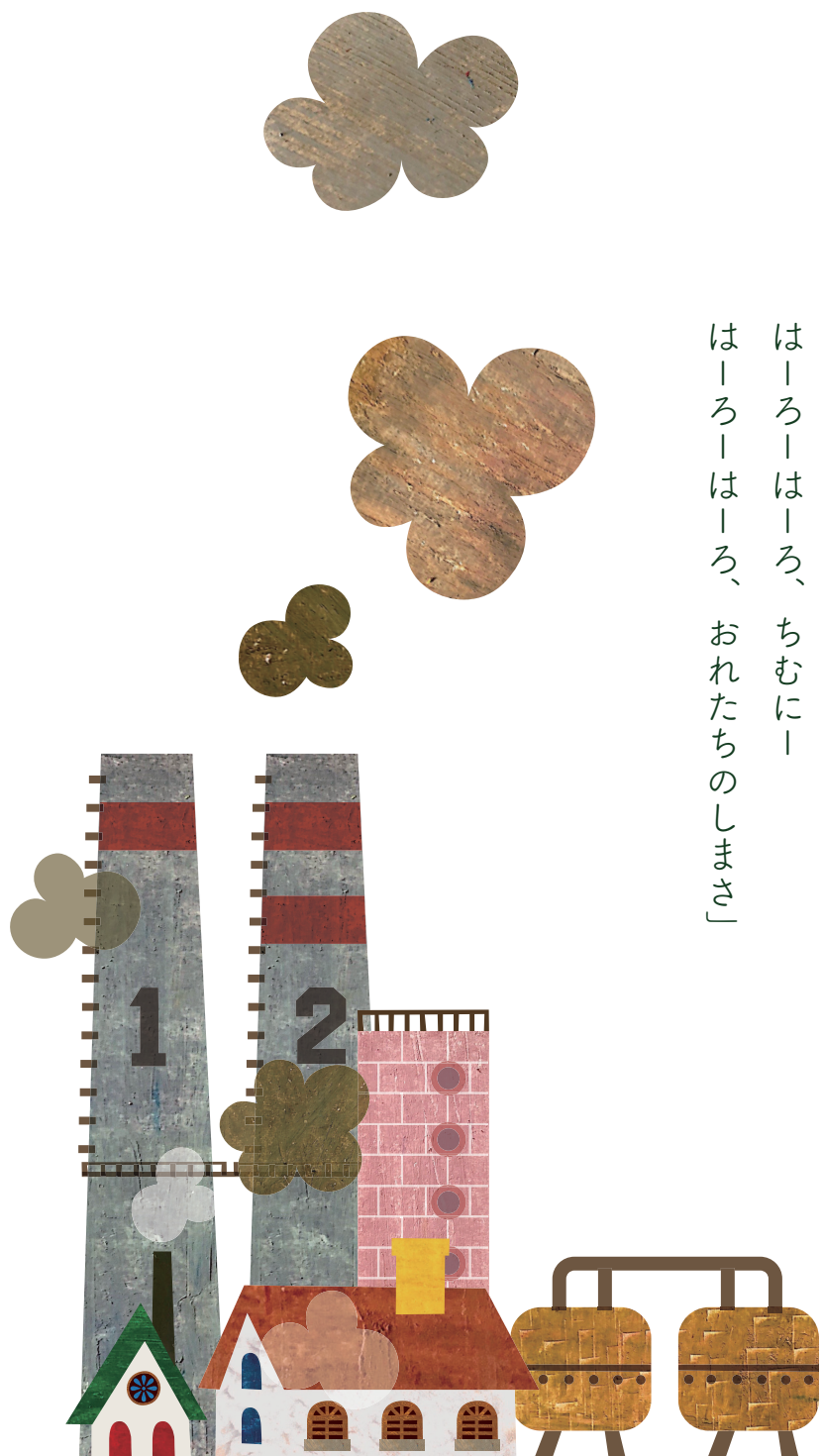
おれたちはなかま

はーろーはーろ、ちむにー

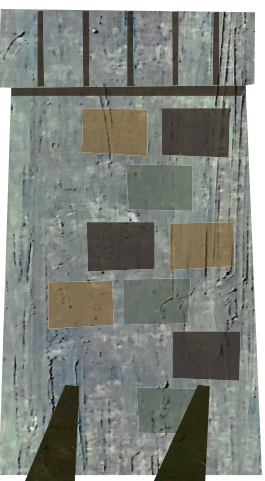
はーろーはーろ、おれたちのしまさ

はーろーはーろ、ちむにー

はーろーはーろ、おれたちのしまさ」



【えんとつのうえ】



「えんとつ」のうえにすわる「ぶぺる」と「るびっち」
ふたりをかこむ「えんとつそうじや」

そうじや① 「『るびっち』がともだちをつれてきたのははじめてだ」
そうじや② 「めずらしいこともあるもんだ」
そうじや③ 「おとしものにはきをつけろよ。『ごみにんげん』
そうじや④ 「『るびっち』はまえにやっちまったからな」

ぶぺる 「?・?」
るびっち 「とおちゃんからもらった『ぺんだんと』を
あの『ごみやま』におとしちゃったんだ」

そうじや① 「さすがに…」
そうじやたち 「あそこにおとしたら、みつからねえ」

「えんとつそうじや」、いなくなる。
『えんとつまちのぶぺる』の「ぴあのきょく」がながれる。
「ぶるーの」、とうじょう。

ぶぺる 「……」
るびっち 「ねえぶぺる。『ほし』ってしってるかい?」



「ぶるーの、きゃくせきにむかってしゃべる

ぶるーの 「けむりのむこうのせかいのはなし。

ひかりかがやくせかいのはなし」

「ぶるーの、ひとさしゆびで「はなのした」をこする。

「ぶるーの、いなくなる。」

るびっち 「とおちゃんがおしえてくれたんだ」

ぶぺる 「ほんとうにあるんですか？」

るびっち 「わからない。でも、ないこともわからない…」

「るびっち、」「えんとつ」からおりて、すてーじのはしへ。

るびっち 「まだ、だれもみていないんだ」

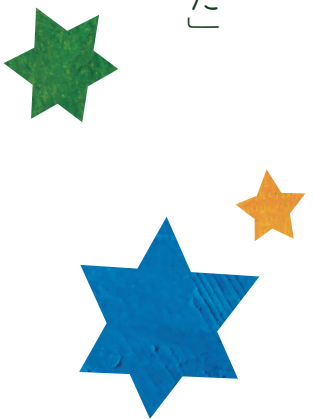
ぶぺる 「……」

けむり① 「おかげでるびっちのとおちゃんは『うそつき』よばわり」

けむり② 「まちのみんなのわらいもの」

けむり③ 「そして、きょねんのふゆ」

けむり④ 「なみにのまれてしんじやった」



「けむり」、いなくなる。

『えんとつまちのぷぺる』の「ぴあのきょく」がとまる
「こどもたち」、とうじょう。

あんとにお「おい、るびっち」

でにす 「さいきん、びょうきがはやっているらしい」

れべっか 「あの『ごみにんげん』のばいきんがげんいんじゃないの？」
るびっち 「ぷぺるにばいきんなんてない。まいにちからだを

あらってるんだ」

とーます 「うそをつけ。あの『ごみにんげん』はきょうもくさかったぞ」

なんしー 「まいにちあらってるなんて、うそっぱちよ」

べん 「おまえのいえはおやこそろってうそつきだ」

あんとにお「あんなやつといつまで、つるむつもりだ。いいかげん、

こっちにこい！」

こどもたち、いなくなる。

「ぷぺる」、「えんとつ」をおりて、「るびっち」のもとへ。

ぷぺる 「……………」

「るびっち」、したをむいている。

ぷぺる 「…るびっちさん？」

るびっち 「また、くさくなってるじゃないか。いいかげんにしてくれよ」

「るびっち」、いなくなる。

「すこっぷ」「べる」、とうじょう。

【すてーじのまえ】

「ぶぺる」、すてーじのおくでなにかをさがしている。

すこっぷ 「このひをさかいに、ふたりがあうことはなくなった」
べる 「だけど『ぶぺる』は、ふゆがきてもずっとさがしていたの…」

こどもたち、とうじょう。

あんとにお 「すなはまに『へんなふね』がとまっているらしい」
でにす 「へんなふね？」
れべっか 「ふうせんがたくさんついているらしいわ」
べん 「だれのしわざだ」
とーます 「いこう」

こどもたち、いなくなる。

「ぶぺる」と「すこっぷ」と「べる」、「えんとつ」をひっくりがえす。
「えんとつ」のうらが、「ふね（せんしゅ）」になっている。

すこっぷ 「そしてやってきた…」
すこ&ベル 「よるのまちのさいごのよる…」

「おんがく（ぜんそう）」がながれる。

【すなはま】

すてーじのまんなかには「ふね」がとまっている。

「るびっち」、とうじょう。

るびっち 「どうしたんだいぷぺる。ぼくたちは、もう」

ぷぺる 「いこう、るびっち」

るびっち 「いくって、どこに？」

ぷぺる 「けむりのうえ。『ほし』をみにいこう」

「ぷぺる」と「るびっち」、ふねにのる。



うた③ 『えんとつまちのぷぺる』

「こどもたち」が「かさ」をもってとうじょう。

こどもたち「くろいあめがふるひも

『すす』のかぜがふくひも

ごみやまにのぼる『ごみにんげん』

ひどいにおいさ」

「えんとつそうじや」が「かさ」をもってとうじょう。

そうじや 「きょうもきみはさがしてる

きょうもひとりさがしてる

しょうねんがあひなくした

たいせつなもの」

「けむり」が「かさ」をもってとうじょう。

けむり 「みつかりっこないさそとをさがしても

こたえはきみがもってる」

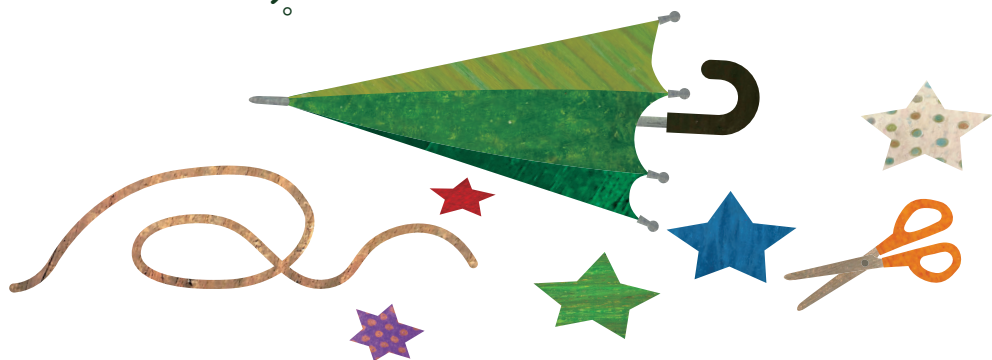
「ぷぺる」、あたまのかさ（とんがりにとぼう）のなかから

「ぺんだんと」をだす。おどろく「るびっち」。

みんな 「けがれをしないきみの『め』や『ことば』や『せなか』が

おくびょうなぼくらにおしえてくれた

ほんとうのつよさを



はろはろはろはろういん
ぶぺぶっぷーぶぺる

こころやさしい『ごみにんげん』

はろはろはろはろういん

ぷぺぶっぷーぶぺる

きみはぼくのともだち

「けむり」が、「ぶぺる」と「るびっち」をかこむ。

「ぶぺる」が「るびっち」の「かた」をたたく。

もうすぐ「けむり」をぬける。

よろこぶ「るびっち」

「ぶぺる」、ひとさしゆびで「はなのした」をこする。

るびっち「！」

みんな 「ごみのからだのそのおくには

あのひのにおいがある」

「ぶるーの」「しんぞう」、とうじょう。

「ほし」のますくをかぶっている。

みんな

「けがれをしないきみの『め』や『ことば』や『せなか』が
おくびょうなぼくらにおしえてくれた

ほんとうのつよさを」

みんな、いっせいに「かさ」をひらく。

「かさ」からは、たくさん「ほし（がーらんど）」がたれている。

みんな 「はろはろはろはろういん

ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる

ゆうきをよせあつめた

はろはろはろはろういん

ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる

ながいけむりのよるに

はろはろはろはろういん

ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる

きせきがちかづいてる

はろはろはろはろういん

ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる


めぐりめぐるものがたり

はろはろはろはろういん

ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる

こころやさしい『ごみにんげん』





はろはろはろはろういん
ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる
きみはぼくのともだち

はろはろはろはろういん
ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる
きせきがちかづいてる
はろはろはろはろういん
ぶぺ ぶっ ぶー ぶぺる
えんとつまちのものがたり
えんとつまちのものがたり
えんとつまちのものがたり

みんな、まんなかにあつまって、『きめぼーず』
「かさ」のさきが、ともだちにあたらないようにきをつける。

【おしまい】

